各種腎・尿路系疾患および川崎病における尿中インターロイキン6の動態とその臨床的意義

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 太田, 和秀
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15016

学位授与番号	医博乙第1169号
学位授与年月日	平成4年3月4日
氏　　名	太 田 和 秀
学位論文題目	各種腎・尿路系疾患及び川崎病における尿中インターロイキン6の動態とその臨床的意義
論文審査委員	主 査　教 授　谷 口　昻 副 査　教 授　久 住 治 男 教 授　松 島 綱 治

内容の要旨および審査の結果の要旨

インターロイキン6（interleukin　6，IL－6）は，生体内における炎症反応や免疫応答において重要な役割を演じていることが知られており，さらに糸球体メサンギウム細胞のオートクリン増殖因子としての可能性も報告され注目されている。本研究では，メサンギウム増殖性腎炎をはじめとした各種腎・尿路系疾患および無菌性膿尿を伴うことで知られる川崎病において尿中IL－6活性を測定し，その臨床的意義について検討した。血清および尿中IL－6活性の測定は，IL－6依存性マウスハイブリドーマ・クローンであるMH60・BSF2に対する増殖促進効果を指標としたバイオアッセイ法により測定した。

結果は次の如く要約される。

1．メサンギウム増殖性腎炎の尿中IL－6活性は，正常範囲内から高値を示すものまで種々であったが，その値はメサンギウム細胞の増殖性変化が強いほど高値であった。

2．その他の増殖性糸球体腎炎（溶連菌感染後急性糸球体腎炎，膜性増殖性糸球体腎炎）および尿路感染症などでも尿中IL－6活性は高値であった。

3．非増殖性疾患の大部分の症例で尿中IL－6活性は低値であった。

4．無菌性膿尿を伴うことで知られる川崎病でも尿中IL－6活性は高値を示し，かつ尿中（N－acetyl－β－D－glucosaminidase）NAG活性，β_2－ミクログロブリン値も高かった。

5．血清IL－6活性と尿中IL－6活性との比較では，両者に全く相関はなく，尿中IL－6活性が血中由来であるとの考えは否定的であった。

以上の成績より，尿中IL－6活性は腎・尿路系における何等かの炎症の存在ならびにその程度を反映し，かつその病態を知る良い指標になり得るものと思われる。さらに非糸球体性疾患との鑑別における補助的診断法としても有用と思われる。また川崎病では，尿中IL－6活性をはじめ尿中NAG活性，β_2－ミクログロブリン値も高く，一過性ではあるがその急性期に尿細管障害を伴うような強い炎症が存在していることが示唆される。

本研究は，尿中IL－6活性の臨床的意義について検討し，各種腎・尿路系疾患の鑑別診断や病勢の良き指標になり得る可能性を示唆しており，またこれらの疾患の病態解明にも寄与する論文と評価された。